

## 8 発症からの経過時間毎の臨床症状

対象集団：小児 (n=49)

項目	カテゴリー または統計量	発症日からの経過期間(月)			p値*
		0ヵ月以降 36ヵ月まで (n=11)	36ヵ月以降 72ヵ月まで (n=15)	72ヵ月以降 (n=21)	
経管栄養	無	10 ( 90.9)	8 ( 53.3)	17 ( 81.0)	0.0623
	有	1 ( 9.1)	7 ( 46.7)	4 ( 19.0)	
中心静脈栄養	無	5 ( 45.5)	5 ( 33.3)	6 ( 28.6)	0.6309
	有	6 ( 54.5)	10 ( 66.7)	15 ( 71.4)	
診療形態 -入院・外来	入院中	1 ( 9.1)	3 ( 23.1)	4 ( 20.0)	0.6489
	外来通院中	10 ( 90.9)	10 ( 76.9)	16 ( 80.0)	
入院-過去1年 以内の入院	無	3 ( 27.3)	3 ( 23.1)	6 ( 30.0)	0.9092
	有	8 ( 72.7)	10 ( 76.9)	14 ( 70.0)	
PS	0	2 ( 18.2)	5 ( 38.5)	1 ( 5.0)	0.0916
	1	4 ( 36.4)	6 ( 46.2)	15 ( 75.0)	
	2	3 ( 27.3)	0 ( 0.0)	4 ( 20.0)	
	3	1 ( 9.1)	1 ( 7.7)	0 ( 0.0)	
	4	1 ( 9.1)	1 ( 7.7)	0 ( 0.0)	
経口摂取	可能	8 ( 72.7)	9 ( 69.2)	14 ( 77.8)	0.4372
	制限あり	2 ( 18.2)	0 ( 0.0)	1 ( 5.6)	
	少量のみ	1 ( 9.1)	3 ( 23.1)	3 ( 16.7)	
	不可能	0 ( 0.0)	1 ( 7.7)	0 ( 0.0)	
ストマ	無	8 ( 72.7)	10 ( 76.9)	9 ( 45.0)	0.1234
	有	3 ( 27.3)	3 ( 23.1)	11 ( 55.0)	
カテーテル 感染歴	無	3 ( 27.3)	2 ( 13.3)	4 ( 19.0)	0.6714
	有	8 ( 72.7)	13 ( 86.7)	17 ( 81.0)	
カテーテル 血管閉塞	無	10 ( 90.9)	13 ( 86.7)	9 ( 42.9)	0.0038
	有	1 ( 9.1)	2 ( 13.3)	12 ( 57.1)	
カテーテル 血管本数	症例数	11	15	21	0.0016
	平均値	6.0	5.9	4.5	
	標準偏差	0.0	0.4	1.8	
	最小値	6.0	5.0	1.0	
	中央値	6.0	6.0	5.0	
	最大値	6.0	6.0	6.0	
	欠測数	0	0	0	
肝機能異常	無	4 ( 36.4)	10 ( 66.7)	10 ( 47.6)	0.2847
	有	7 ( 63.6)	5 ( 33.3)	11 ( 52.4)	
肝生検	無	10 ( 90.9)	14 ( 93.3)	16 ( 76.2)	0.2997
	有	1 ( 9.1)	1 ( 6.7)	5 ( 23.8)	
腎機能異常	無	11 ( 100.0)	14 ( 93.3)	12 ( 57.1)	0.0047
	有	0 ( 0.0)	1 ( 6.7)	9 ( 42.9)	
TB (mg/dL)	症例数	11	14	19	0.6746
	平均値	0.53	2.47	1.13	
	標準偏差	0.31	5.93	2.40	
	最小値	0.20	0.17	0.10	
	中央値	0.40	0.40	0.55	
	最大値	1.10	21.90	10.90	
	欠測数	0	1	2	
DB (mg/dL)	症例数	7	10	13	0.3063
	平均値	0.13	2.48	0.65	
	標準偏差	0.10	5.46	1.94	
	最小値	0.00	0.00	0.00	
	中央値	0.10	0.20	0.10	
	最大値	0.30	16.90	7.10	
	欠測数	4	5	8	
AST (UI/L)	症例数	11	15	20	0.2508
	平均値	55.1	71.5	44.4	
	標準偏差	31.9	139.7	35.7	
	最小値	25.0	8.0	15.0	
	中央値	52.0	34.0	29.0	
	最大値	132.0	573.0	167.0	
	欠測数	0	0	1	

## 8 発症からの経過時間毎の臨床症状

対象集団：小児(n=49)

項目	カテゴリー または統計量	発症日からの経過期間(月)			p値*
		0カ月以降 36カ月まで (n=11)	36カ月以降 72カ月まで (n=15)	72カ月以降 (n=21)	
ALT (U/L)	症例数	11	15	20	0.2523
	平均値	88.4	49.1	39.2	
	標準偏差	106.3	51.0	30.3	
	最小値	14.0	10.0	7.0	
	中央値	54.0	31.0	30.5	
	最大値	363.0	207.0	129.0	
	欠測数	0	0	1	
TP (g/dL)	症例数	11	15	20	0.9093
	平均値	6.8	6.8	6.5	
	標準偏差	0.7	0.7	1.2	
	最小値	5.5	5.0	3.4	
	中央値	6.9	7.0	6.9	
	最大値	8.0	8.0	8.3	
	欠測数	0	0	1	
ALB (g/dL)	症例数	9	15	20	0.1769
	平均値	4.2	3.6	3.7	
	標準偏差	0.5	0.7	0.8	
	最小値	3.6	2.6	2.0	
	中央値	4.0	3.7	3.9	
	最大値	5.0	4.7	4.9	
	欠測数	2	0	1	
BUN (mg/dL)	症例数	11	15	20	0.2474
	平均値	10.0	12.7	14.2	
	標準偏差	3.1	7.5	7.1	
	最小値	3.7	4.0	5.0	
	中央値	11.0	12.0	12.1	
	最大値	13.8	36.0	31.0	
	欠測数	0	0	1	
Cr (mg/dL)	症例数	11	15	19	<.0001
	平均値	0.29	0.65	1.60	
	標準偏差	0.09	0.80	3.98	
	最小値	0.17	0.24	0.30	
	中央値	0.30	0.40	0.70	
	最大値	0.46	3.47	18.00	
	欠測数	0	0	2	
PT-INR	症例数	1	7	9	0.6619
	平均値	1.12	1.35	1.26	
	標準偏差	-	0.32	0.44	
	最小値	1.12	1.03	0.85	
	中央値	1.12	1.15	1.20	
	最大値	1.12	1.86	2.29	
	欠測数	10	8	12	
血小板 (万/mm <sup>3</sup> )	症例数	11	14	20	0.0609
	平均値	27.8	31.4	22.8	
	標準偏差	10.0	13.7	12.8	
	最小値	19.0	2.9	5.1	
	中央値	23.7	27.4	19.3	
	最大値	50.3	54.6	57.0	
	欠測数	0	1	1	

\*定性変数には $\chi^2$ 検定、定量変数にはWilcoxon-Mann-Whitney検定のp値を算出した。

## 8 発症からの経過時間毎の臨床症状

対象集団：乳児 (n=231)

項目	カテゴリー または統計量	発症日からの経過期間(月)			p値*
		0ヵ月以降 36ヵ月まで (n=62)	36ヵ月以降 72ヵ月まで (n=69)	72ヵ月以降 (n=100)	
性別	男性 女性	31 ( 50.0) 31 ( 50.0)	32 ( 46.4) 37 ( 53.6)	45 ( 45.0) 55 ( 55.0)	0.8229
発症時年齢 (歳)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	62 0.0 0.1 0.0 0.0 0.4 0	69 0.0 0.1 0.0 0.0 0.5 0	100 0.1 0.2 0.0 0.0 1.0 0	0.6564
調査票記入時 年齢(歳)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	62 1.7 0.9 0.4 1.6 3.0 0	69 4.4 1.0 3.1 4.2 6.0 0	100 14.3 7.5 6.0 11.4 38.0 0	<.0001
身長 (cm)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	53 68.8 12.1 46.0 69.7 90.1 9	57 88.6 14.7 45.0 92.2 119.7 12	98 129.8 23.5 50.0 130.0 173.3 2	<.0001
体重 (kg)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	54 7.8 3.9 2.1 7.8 25.6 8	62 11.7 4.3 1.6 12.8 21.5 7	99 28.7 12.2 4.4 25.8 57.3 1	<.0001
BMI	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	52 16.3 10.6 10.4 15.0 89.1 10	57 15.0 3.3 9.2 14.9 35.1 12	98 16.0 2.6 11.6 15.8 24.3 2	0.0135
残存小腸 (cm)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	51 55.7 50.8 5.0 44.0 240.0 11	51 50.0 44.0 4.0 45.0 250.0 18	73 70.3 54.7 6.0 60.0 300.0 27	0.0144
回盲弁	無 有	20 ( 35.7) 36 ( 64.3)	25 ( 41.0) 36 ( 59.0)	49 ( 55.1) 40 ( 44.9)	0.0514
腸管切除	無 有	30 ( 48.4) 32 ( 51.6)	29 ( 42.0) 40 ( 58.0)	38 ( 38.0) 62 ( 62.0)	0.4284
胃瘻造設	無 有	60 ( 96.8) 2 ( 3.2)	63 ( 91.3) 6 ( 8.7)	86 ( 86.0) 14 ( 14.0)	0.0730
腸瘻造設	無 有	24 ( 38.7) 38 ( 61.3)	24 ( 34.8) 45 ( 65.2)	37 ( 37.0) 63 ( 63.0)	0.8960
腸管延長術	無 有	62 ( 100.0) 0 ( 0.0)	64 ( 92.8) 5 ( 7.2)	95 ( 95.0) 5 ( 5.0)	0.1146
減圧用胃瘻、 腸瘻	無 有	44 ( 73.3) 16 ( 26.7)	39 ( 57.4) 29 ( 42.6)	57 ( 60.6) 37 ( 39.4)	0.1418
腸運動改善薬	無 有	39 ( 63.9) 22 ( 36.1)	53 ( 77.9) 15 ( 22.1)	58 ( 63.7) 33 ( 36.3)	0.1152
プロバイオ ティクス	無 有	17 ( 27.4) 45 ( 72.6)	18 ( 26.5) 50 ( 73.5)	36 ( 39.1) 56 ( 60.9)	0.1569
経口栄養	無 有	17 ( 27.4) 45 ( 72.6)	15 ( 21.7) 54 ( 78.3)	14 ( 14.0) 86 ( 86.0)	0.1040

## 8 発症からの経過時間毎の臨床症状

対象集団：乳児(n=231)

項目	カテゴリ または統計量	発症日からの経過期間(月)			p値*
		0ヵ月以降 36ヵ月まで (n=62)	36ヵ月以降 72ヵ月まで (n=69)	72ヵ月以降 (n=100)	
経管栄養	無	45( 72.6)	51( 73.9)	82( 82.0)	0.2908
	有	17( 27.4)	18( 26.1)	18( 18.0)	
中心静脈栄養	無	18( 29.0)	23( 33.3)	43( 43.0)	0.1639
	有	44( 71.0)	46( 66.7)	57( 57.0)	
診療形態 -入院・外来	入院中	22( 44.9)	3( 6.3)	11( 11.6)	<.0001
	外来通院中	27( 55.1)	45( 93.8)	84( 88.4)	
入院-過去1年 以内の入院	無	8( 16.7)	19( 41.3)	35( 37.6)	0.0173
	有	40( 83.3)	27( 58.7)	58( 62.4)	
PS	0	11( 22.9)	19( 39.6)	26( 27.7)	<.0001
	1	10( 20.8)	15( 31.3)	53( 56.4)	
	2	12( 25.0)	7( 14.6)	13( 13.8)	
	3	3( 6.3)	3( 6.3)	1( 1.1)	
	4	12( 25.0)	4( 8.3)	1( 1.1)	
経口摂取	可能	33( 67.3)	36( 75.0)	70( 73.7)	0.1115
	制限あり	10( 20.4)	7( 14.6)	8( 8.4)	
	少量のみ	2( 4.1)	4( 8.3)	14( 14.7)	
	不可能	4( 8.2)	1( 2.1)	3( 3.2)	
ストマ	無	30( 61.2)	27( 55.1)	60( 63.2)	0.6412
	有	19( 38.8)	22( 44.9)	35( 36.8)	
カテーテル 感染歴	無	25( 40.3)	17( 24.6)	25( 26.0)	0.0895
	有	37( 59.7)	52( 75.4)	71( 74.0)	
カテーテル 血管閉塞	無	46( 80.7)	55( 82.1)	53( 55.2)	0.0001
	有	11( 19.3)	12( 17.9)	43( 44.8)	
カテーテル 血管本数	症例数	57	67	96	<.0001
	平均値	5.8	5.7	4.7	
	標準偏差	0.4	0.7	1.9	
	最小値	4.0	2.0	0.0	
	中央値	6.0	6.0	6.0	
	最大値	6.0	6.0	6.0	
	欠測数	5	2	4	
肝機能異常	無	22( 35.5)	27( 39.7)	56( 56.0)	0.0196
	有	40( 64.5)	41( 60.3)	44( 44.0)	
肝生検	無	55( 93.2)	57( 87.7)	87( 90.6)	0.5769
	有	4( 6.8)	8( 12.3)	9( 9.4)	
腎機能異常	無	57( 91.9)	64( 94.1)	85( 85.0)	0.1281
	有	5( 8.1)	4( 5.9)	15( 15.0)	
TB(mg/dL)	症例数	54	64	98	0.1410
	平均値	2.20	1.81	1.21	
	標準偏差	4.54	4.21	3.20	
	最小値	0.10	0.10	0.10	
	中央値	0.30	0.40	0.50	
	最大値	22.94	19.10	22.43	
	欠測数	8	5	2	
DB(mg/dL)	症例数	38	41	71	0.7450
	平均値	2.68	1.85	0.79	
	標準偏差	5.24	3.81	2.74	
	最小値	0.00	0.00	0.00	
	中央値	0.12	0.10	0.10	
	最大値	18.80	13.20	15.00	
	欠測数	24	28	29	
AST(U/L)	症例数	58	67	99	0.0001
	平均値	146.5	74.1	45.4	
	標準偏差	343.6	76.7	35.7	
	最小値	4.5	20.0	12.0	
	中央値	51.5	44.0	35.0	
	最大値	2368.0	458.0	250.0	
	欠測数	4	2	1	

## 8 発症からの経過時間毎の臨床症状

対象集団：乳児(n=231)

項目	カテゴリー または統計量	発症日からの経過期間(月)			p値*
		0カ月以降 36カ月まで (n=62)	36カ月以降 72カ月まで (n=69)	72カ月以降 (n=100)	
ALT (U/L)	症例数	58	67	100	0.1986
	平均値	79.8	57.3	50.8	
	標準偏差	89.1	71.0	44.9	
	最小値	6.0	10.0	5.0	
	中央値	50.5	38.0	38.0	
	最大値	515.0	508.0	250.0	
	欠測数	4	2	0	
TP (g/dL)	症例数	57	67	99	<.0001
	平均値	5.7	6.4	6.7	
	標準偏差	0.8	1.0	0.7	
	最小値	3.2	3.7	4.5	
	中央値	5.9	6.5	6.7	
	最大値	7.4	8.3	8.6	
	欠測数	5	2	1	
ALB (g/dL)	症例数	53	64	96	0.4114
	平均値	3.7	3.8	3.8	
	標準偏差	0.7	0.8	0.7	
	最小値	1.6	1.7	0.1	
	中央値	3.9	4.1	3.9	
	最大値	4.8	5.3	4.9	
	欠測数	9	5	4	
BUN (mg/dL)	症例数	58	66	100	0.1294
	平均値	12.1	14.0	13.0	
	標準偏差	11.8	10.7	6.9	
	最小値	2.0	2.2	3.0	
	中央値	10.0	10.7	11.0	
	最大値	86.0	71.0	46.8	
	欠測数	4	3	0	
Cr (mg/dL)	症例数	58	62	100	<.0001
	平均値	0.34	0.34	0.56	
	標準偏差	0.57	0.41	0.69	
	最小値	0.07	0.10	0.14	
	中央値	0.22	0.26	0.40	
	最大値	4.32	3.35	6.53	
	欠測数	4	7	0	
PT-INR	症例数	18	21	24	0.2327
	平均値	1.89	2.02	1.16	
	標準偏差	1.51	2.24	0.14	
	最小値	0.98	0.98	0.9	
	中央値	1.21	1.26	1.14	
	最大値	6.29	10	1.47	
	欠測数	44	48	76	
血小板 (万/mm <sup>3</sup> )	症例数	58	66	100	0.0392
	平均値	27.1	27.0	24.0	
	標準偏差	11.8	13.8	13.0	
	最小値	1.0	1.3	2.6	
	中央値	28.4	24.3	22.4	
	最大値	49.4	73.3	77.3	
	欠測数	4	3	0	

\*定性変数には $\chi^2$ 検定、定量変数にはWilcoxon-Mann-Whitney検定のp値を算出した。

## 8 発症からの経過時間毎の臨床症状

対象集団：クローン病(n=28)

項目	カテゴリー または統計量	発症日からの経過期間(月)		p値*
		0ヵ月以降 300ヵ月まで (n=15)	300ヵ月以降 (n=13)	
性別	男性 女性	9 ( 60.0) 6 ( 40.0)	8 ( 61.5) 5 ( 38.5)	0.9337
発症時年齢 (歳)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	15 29.0 12.0 15.4 24.9 53.0 0	13 23.1 7.2 14.6 20.5 40.0 0	0.2052
調査票記入時 年齢(歳)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	15 44.7 9.9 20.7 44.2 62.9 0	13 55.1 7.1 45.7 54.1 71.3 0	0.0034
身長(cm)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	15 164.9 10.1 149.0 162.0 177.0 0	13 160.3 6.8 150.0 160.0 171.0 0	0.1664
体重(kg)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	15 50.1 10.1 37.5 50.0 70.8 0	13 49.4 7.5 39.5 52.0 57.2 0	0.7999
BMI	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	15 18.3 2.2 15.0 17.9 22.8 0	13 19.2 2.2 15.6 19.6 22.3 0	0.2790
残存小腸(cm)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	14 135.4 53.7 40.0 125.0 210.0 1	12 133.3 32.4 80.0 145.0 180.0 1	0.9589
回盲弁	無 有	13 ( 86.7) 2 ( 13.3)	9 ( 75.0) 3 ( 25.0)	0.4381
腸管切除	無 有	0 ( 0.0) 15 ( 100.0)	0 ( 0.0) 13 ( 100.0)	-
胃瘻造設	無 有	15 ( 100.0) 0 ( 0.0)	13 ( 100.0) 0 ( 0.0)	-
腸瘻造設	無 有	13 ( 86.7) 2 ( 13.3)	11 ( 84.6) 2 ( 15.4)	0.8771
腸管延長術	無 有	15 ( 100.0)	13 ( 100.0)	-
減圧用胃瘻、 腸瘻	無 有	13 ( 86.7) 2 ( 13.3)	10 ( 83.3) 2 ( 16.7)	0.8086
腸運動改善薬	無 有	12 ( 92.3) 1 ( 7.7)	5 ( 62.5) 3 ( 37.5)	0.0912
プロバイオ ティクス	無 有	8 ( 57.1) 6 ( 42.9)	4 ( 44.4) 5 ( 55.6)	0.5518
経口栄養	無 有	6 ( 40.0) 9 ( 60.0)	8 ( 61.5) 5 ( 38.5)	0.2556

## 8 発症からの経過時間毎の臨床症状

対象集団: クロウン病 (n=28)

項目	カテゴリー または統計量	発症日からの経過期間(月)		p値*
		0ヵ月以降 300ヵ月まで (n=15)	300ヵ月以降 (n=13)	
経管栄養	無	12 ( 80.0)	13 ( 100.0)	0.0879
	有	3 ( 20.0)	0 ( 0.0)	
中心静脈栄養	無	4 ( 26.7)	2 ( 15.4)	0.4681
	有	11 ( 73.3)	11 ( 84.6)	
診療形態 #NAME?	入院中	2 ( 14.3)	3 ( 25.0)	0.4895
	外来通院中	12 ( 85.7)	9 ( 75.0)	
入院-過去1年 以内の入院	無	7 ( 50.0)	7 ( 58.3)	0.6709
	有	7 ( 50.0)	5 ( 41.7)	
PS	0	2 ( 14.3)	0 ( 0.0)	0.2338
	1	11 ( 78.6)	12 ( 100.0)	
	3	1 ( 7.1)	0 ( 0.0)	
経口摂取	可能	7 ( 50.0)	9 ( 81.8)	0.0999
	少量のみ	7 ( 50.0)	2 ( 18.2)	
ストマ	無	6 ( 42.9)	7 ( 58.3)	0.4314
	有	8 ( 57.1)	5 ( 41.7)	
カテーテル 感染歴	無	6 ( 40.0)	5 ( 38.5)	0.9337
	有	9 ( 60.0)	8 ( 61.5)	
カテーテル 血管閉塞	無	13 ( 86.7)	10 ( 76.9)	0.5020
	有	2 ( 13.3)	3 ( 23.1)	
カテーテル 血管本数	症例数	15	13	0.4902
	平均値	5.7	5.4	
	標準偏差	1.1	1.5	
	最小値	2.0	1.0	
	中央値	6.0	6.0	
	最大値	6.0	6.0	
	欠測数	0	0	
肝機能異常	無	9 ( 60.0)	11 ( 84.6)	0.1504
	有	6 ( 40.0)	2 ( 15.4)	
肝生検	無	15 ( 100.0)	13 ( 100.0)	-
	有	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	
腎機能異常	無	13 ( 86.7)	12 ( 92.3)	0.6303
	有	2 ( 13.3)	1 ( 7.7)	
TB (mg/dL)	症例数	15	11	0.7327
	平均値	0.53	0.53	
	標準偏差	0.22	0.23	
	最小値	0.20	0.20	
	中央値	0.60	0.50	
	最大値	0.90	1.10	
	欠測数	0	2	
DB (mg/dL)	症例数	2	3	0.5428
	平均値	0.20	0.20	
	標準偏差	0.00	0.17	
	最小値	0.20	0.10	
	中央値	0.20	0.10	
	最大値	0.20	0.40	
	欠測数	13	10	
AST (UI/L)	症例数	15	12	0.3390
	平均値	31.4	40.3	
	標準偏差	16.1	39.4	
	最小値	16.0	20.0	
	中央値	27.0	28.0	
	最大値	63.0	164.0	
	欠測数	0	1	
ALT (UI/L)	症例数	15	12	0.8451
	平均値	34.1	44.8	
	標準偏差	19.3	64.1	
	最小値	10.0	13.0	
	中央値	25.0	28.5	
	最大値	75.0	247.0	
	欠測数	0	1	

## 8 発症からの経過時間毎の臨床症状

対象集団：クローン病(n=28)

項目	カテゴリー または統計量	発症日からの経過期間(月)		p値*
		0ヵ月以降 300ヵ月まで (n=15)	300ヵ月以降 (n=13)	
TP (g/dL)	症例数	15	10	0.5396
	平均値	7.0	7.2	
	標準偏差	1.0	0.9	
	最小値	4.9	5.7	
	中央値	6.9	7.1	
	最大値	8.5	8.5	
	欠測数	0	3	
ALB (g/dL)	症例数	15	12	0.8637
	平均値	3.5	3.6	
	標準偏差	0.6	0.6	
	最小値	2.2	2.2	
	中央値	3.6	3.8	
	最大値	4.2	4.7	
	欠測数	0	1	
BUN (mg/dL)	症例数	15	12	0.5241
	平均値	13.6	14.7	
	標準偏差	4.9	6.9	
	最小値	8.0	5.0	
	中央値	13.0	14.0	
	最大値	26.0	29.2	
	欠測数	0	1	
Cr (mg/dL)	症例数	15	11	0.1932
	平均値	0.91	0.98	
	標準偏差	0.41	0.29	
	最小値	0.48	0.60	
	中央値	0.75	0.98	
	最大値	2.00	1.74	
	欠測数	0	2	
PT-INR	症例数	2	5	0.4386
	平均値	1.04	1.59	
	標準偏差	0.1	0.63	
	最小値	0.97	0.91	
	中央値	1.04	1.67	
	最大値	1.11	2.29	
	欠測数	13	8	
血小板 (万/mm <sup>3</sup> )	症例数	15	11	0.8153
	平均値	22.5	23.0	
	標準偏差	7.7	10.6	
	最小値	8.8	8.0	
	中央値	23.4	20.9	
	最大値	34.5	38.5	
	欠測数	0	2	

\*定性変数には $\chi^2$ 検定、定量変数にはWilcoxon-Mann-Whitney検定のp値を算出した。



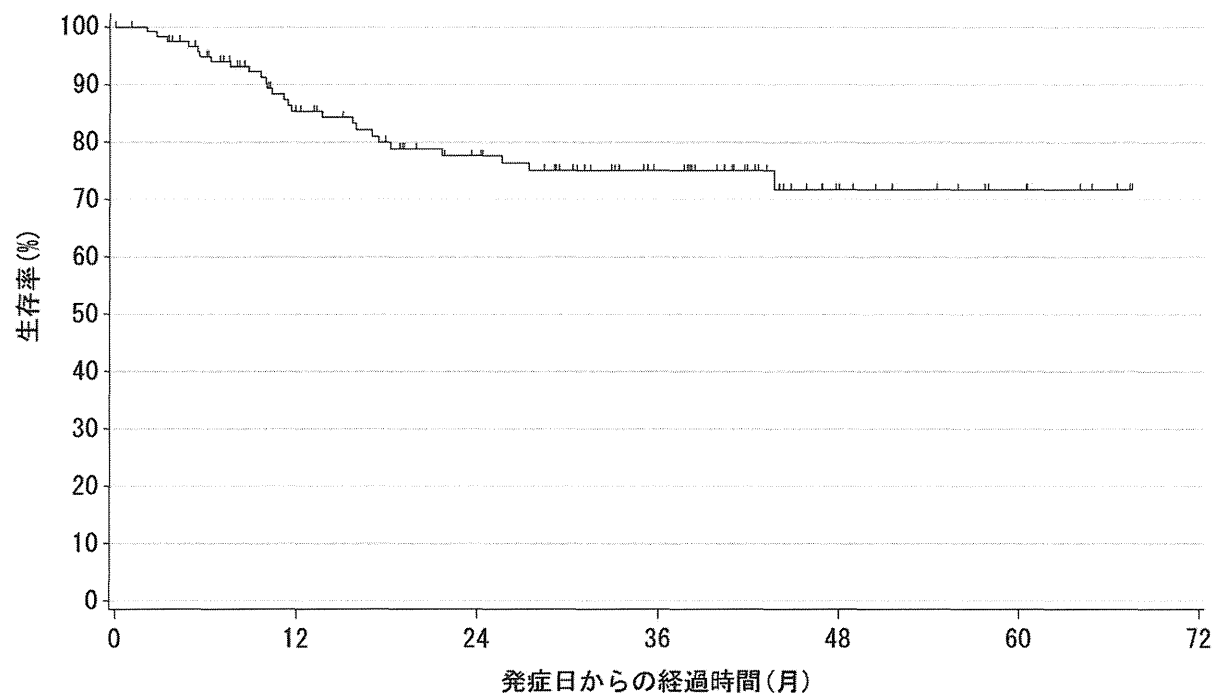
## 9.1 乳児における生存率に関する解析

データ入力された乳児症例 231例

解析除外症例	109 例
【解析除外理由】	
2006年1月1日～2011年6月30日に発症しなかった症例	109 例

調査期間中\*に発症した乳児症例 122例

\*調査期間は「2006年1月1日～2011年6月30日」であった。



発症日からの経過時間(月)	at risk	累積死亡症例数	生存率 (%)	95%信頼区間
0	121	-	-	-
12	86	16	85.3	78.7- 92.0
24	64	23	77.6	69.4- 85.7
36	58	25	75.0	66.3- 83.6
48	22	26	71.7	61.3- 82.1
60	22	26	71.7	61.3- 82.1

註) 生存時間が算出不可能な症例は1例であった。

## 9.1 乳児における生存率に関する解析

発症時の項目	カテゴリー	症例数(%)	単変量Cox回帰分析			
			ハザード比	95%信頼区間	p値 <sup>†</sup>	p値*
性別	女性	61 ( 50.4)				0.6890
	男性	60 ( 49.6)	0.85	0.39- 1.85	0.6899	
発症時年齢(歳)			110.30	8.03->999.99	0.0004	0.0001
発症時年齢(歳)	0	62 ( 51.2)				0.0797
	>0	59 ( 48.8)	2.03	0.90- 4.55	0.0861	
腸管不全の分類	短腸症候群	63 ( 52.1)				0.5972
	運動機能障害	56 ( 46.3)	0.69	0.32- 1.51	0.3534	
	その他機能障害	2 ( 1.7)	0.00	0.00->999.99	0.9907	

調査票記入時点の項目	カテゴリー	症例数(%)	単変量Cox回帰分析			
			ハザード比	95%信頼区間	p値 <sup>†</sup>	p値*
残存小腸(cm)			0.99	0.98- 1.01	0.3778	0.3747
回盲弁	無	43 ( 40.2)				0.1194
	有	64 ( 59.8)	0.52	0.22- 1.20	0.1260	
身長(cm)			0.88	0.84- 0.92	<.0001	<.0001
体重(kg)			0.53	0.42- 0.67	<.0001	<.0001
BMI			0.91	0.65- 1.26	0.5537	0.6332
腸管切除	無	54 ( 44.6)				0.4484
	有	67 ( 55.4)	0.74	0.34- 1.60	0.4501	
胃瘻造設	無	113 ( 93.4)				0.4113
	有	8 ( 6.6)	0.44	0.06- 3.27	0.4242	
腸瘻造設	無	44 ( 36.4)				0.9569
	有	77 ( 63.6)	0.98	0.44- 2.20	0.9568	
腸管延長術	無	117 ( 96.7)				0.9781
	有	4 ( 3.3)	0.97	0.13- 7.20	0.9784	
減圧用胃瘻、腸瘻	無	78 ( 65.5)				0.0563
	有	41 ( 34.5)	2.09	0.96- 4.51	0.0620	
腸運動改善薬	無	85 ( 71.4)				0.2491
	有	34 ( 28.6)	1.59	0.72- 3.53	0.2531	
プロバイオティクス	無	32 ( 26.7)				0.4732
	有	88 ( 73.3)	0.74	0.32- 1.70	0.4748	
経口栄養	無	29 ( 24)				<.0001
	有	92 ( 76)	0.16	0.07- 0.35	<.0001	
経管栄養	無	88 ( 72.7)				0.0011
	有	33 ( 27.3)	3.35	1.55- 7.23	0.0021	
中心静脈栄養	無	35 ( 28.9)				0.0012
	有	86 ( 71.1)	12.94	1.75- 95.65	0.0121	
カテーテル感染歴	無	39 ( 32.2)				0.5252
	有	82 ( 67.8)	1.34	0.54- 3.35	0.5268	
カテーテル血管閉塞	無	91 ( 79.8)				0.9362
	有	23 ( 20.2)	0.96	0.35- 2.60	0.9369	
残存カテーテル血管本数			0.91	0.52- 1.61	0.7484	0.7484
肝機能異常	無	44 ( 36.4)				0.0008
	有	77 ( 63.6)	8.01	1.89- 33.95	0.0047	
肝生検	無	103 ( 89.6)				0.9801
	有	12 ( 10.4)	1.02	0.30- 3.40	0.9800	
腎機能異常	無	112 ( 93.3)				0.0001
	有	8 ( 6.7)	5.66	2.10- 15.28	0.0006	
TB (mg/dL)			1.20	1.12- 1.28	<.0001	<.0001
DB (mg/dL)			1.23	1.14- 1.33	<.0001	<.0001
AST (UI/L)/100			1.15	1.06- 1.25	0.0015	0.0001
ALT (UI/L)			1.00	1.00- 1.01	0.0882	0.0820
TP (g/dL)			0.31	0.21- 0.46	<.0001	<.0001
ALB (g/dL)			0.16	0.09- 0.29	<.0001	<.0001
BUN (mg/dL)			1.05	1.02- 1.07	0.0001	<.0001
Cr (mg/dL)			1.13	0.56- 2.27	0.7412	0.7395
PT-INR			1.31	1.11- 1.55	0.0012	0.0002
血小板 (万/mm <sup>3</sup> )			0.93	0.89- 0.96	0.0001	0.0001

\*包括的な帰無仮説 $\beta$  (回帰係数)=0に関するスコア検定 (ログランク検定) のp値を算出した。

<sup>†</sup>Wald検定のp値を算出した。

註1) 生存時間が算出不可能な症例は1例であった。

註2) 発症時の項目において統計的有意な項目は1つのみであったため、多変量解析は未実施とした。

## 9.2 乳児におけるIFALD発症率に関する解析

データ入力された乳児症例	231例
	解析除外症例 109 例
	【解析除外理由】
	2006年1月1日～2011年6月30日に発症しなかった症例 109 例

調査期間中*に発症した乳児症例	122例
-----------------	------

\*調査期間は「2006年1月1日～2011年6月30日」であった。

項目	カテゴリー	症例数(%)
IFALD*	無	102( 83.6)
	有	20( 16.4)

\*IFALDは①黄疸かつBill値2以上②肝障害（食道胃静脈瘤あり）③肝生検（線維化かつ肝硬変）のいずれかを含む場合とする。

## 9.2 乳児におけるIFALD発症率に関する解析

発症時の項目	カテゴリー	IFALD発現 症例数 (%)	単変量logistic回帰分析			
			オッズ比	95%信頼区間	p値 <sup>†</sup>	p値*
性別	女性	11/ 62 ( 17.7)	1.00			
	男性	9/ 60 ( 15.0)	1.22	0.47- 3.20	0.6829	0.6829
発症時年齢(歳)		122	11.28	0.14- 917.31	0.2802	0.2802
発症時年齢(歳)	0	8/ 62 ( 12.9)	1.00			
	>0	12/ 60 ( 20.0)	0.59	0.22- 1.57	0.2931	0.2931
腸管不全の分類	短腸症候群	14/ 64 ( 21.9)	1.00			
	運動機能障害	6/ 56 ( 10.7)	2.33	0.83- 6.56	0.1081	0.2750
	その他機能障害	0/ 2 ( 0.0)	309861.40	0.00- >999.99	0.9864	

調査票記入時点の項目	カテゴリー	IFALD発現 症例数 (%)	単変量logistic回帰分析			
			オッズ比	95%信頼区間	p値 <sup>†</sup>	p値*
残存小腸 (cm)		93	0.97	0.94- 1.00	0.0266	0.0266
回盲弁	無	5/ 44 ( 11.4)	1.00			
	有	13/ 62 ( 21.0)	2.06	0.62- 8.02	0.3003	0.2938
身長 (cm)		102	0.96	0.93- 0.99	0.0249	0.0249
体重 (kg)		105	0.98	0.86- 1.11	0.7420	0.7420
BMI		101	1.07	0.96- 1.19	0.2075	0.2075
腸管切除	無	7/ 54 ( 13.0)	1.00			
	有	13/ 66 ( 19.7)	1.64	0.55- 5.29	0.4625	0.4609
胃瘻造設	無	18/ 112 ( 16.1)	1.00			
	有	2/ 8 ( 25.0)	1.73	0.16- 10.74	0.7950	0.6190
腸瘻造設	無	9/ 43 ( 20.9)	1.00			
	有	11/ 77 ( 14.3)	0.63	0.21- 1.91	0.4909	0.4443
腸管延長術	無	19/ 116 ( 16.4)	1.00			
	有	1/ 4 ( 25.0)	1.69	0.03- 22.42	1.0000	0.5226
減圧用胃瘻、腸瘻	無	13/ 77 ( 16.9)	1.00			
	有	7/ 42 ( 16.7)	0.98	0.30- 2.96	1.0000	1.0000
腸運動改善薬	無	14/ 85 ( 16.5)	1.00			
	有	6/ 34 ( 17.6)	1.09	0.31- 3.39	1.0000	1.0000
プロバイオティクス	無	3/ 31 ( 9.7)	1.00			
	有	17/ 88 ( 19.3)	2.22	0.58- 12.74	0.3411	0.2734
経口栄養	無	7/ 30 ( 23.3)	1.00			
	有	13/ 90 ( 14.4)	0.56	0.18- 1.85	0.3912	0.2679
経管栄養	無	10/ 86 ( 11.6)	1.00			
	有	10/ 34 ( 29.4)	3.13	1.03- 9.55	0.0428	0.0283
中心静脈栄養	無	3/ 33 ( 9.1)	1.00			
	有	17/ 87 ( 19.5)	2.41	0.63- 13.80	0.2694	0.2717
カテーテル感染歴	無	5/ 37 ( 13.5)	1.00			
	有	15/ 83 ( 18.1)	1.41	0.44- 5.39	0.7401	0.6065
カテーテル血管閉塞	無	16/ 91 ( 17.6)	1.00			
	有	3/ 23 ( 13.0)	0.71	0.12- 2.83	0.8683	0.7601
残存カテーテル血管本数		114	1.58	0.54- 4.58	0.4036	0.4036
肝機能異常	無	0/ 44 ( 0.0)	1.00			
	有	20/ 78 ( 25.6)	0.00	0.00->999.99	0.9354	0.9354
肝生検	無	8/ 104 ( 7.7)	1.00			
	有	12/ 12 ( 100.0)	0.00	0.00->999.99	0.9629	0.9629
腎機能異常	無	17/ 111 ( 15.3)	1.00			
	有	2/ 8 ( 25.0)	1.83	0.17- 11.42	0.7498	0.6122
TB (mg/dL)		108	1.25	1.11- 1.41	0.0003	0.0003
DB (mg/dL)		74	1.35	1.14- 1.60	0.0004	0.0004
AST (UI/L) /100		115	1.24	0.97- 1.58	0.0875	0.0875
ALT (UI/L)		115	1.00	1.00- 1.01	0.0527	0.0527
TP (g/dL)		114	0.61	0.36- 1.03	0.0661	0.0661
ALB (g/dL)		107	0.50	0.26- 0.98	0.0438	0.0438
BUN (mg/dL)		114	1.00	0.95- 1.05	0.9871	0.9871
Cr (mg/dL)		112	0.03	0.00- 6.36	0.2020	0.2020
PT-INR		39	2.84	0.98- 8.21	0.0534	0.0534
血小板 (万/mm <sup>3</sup> )		113	0.92	0.88- 0.97	0.0010	0.0010

\*包括的な帰無仮説 $\beta$  (回帰係数)=0に関するスコア検定のp値を算出した。

<sup>†</sup>Wald検定のp値を算出した。

註) 発症時の項目において統計的に有意な項目はなかったため、多変量解析は未実施とした。

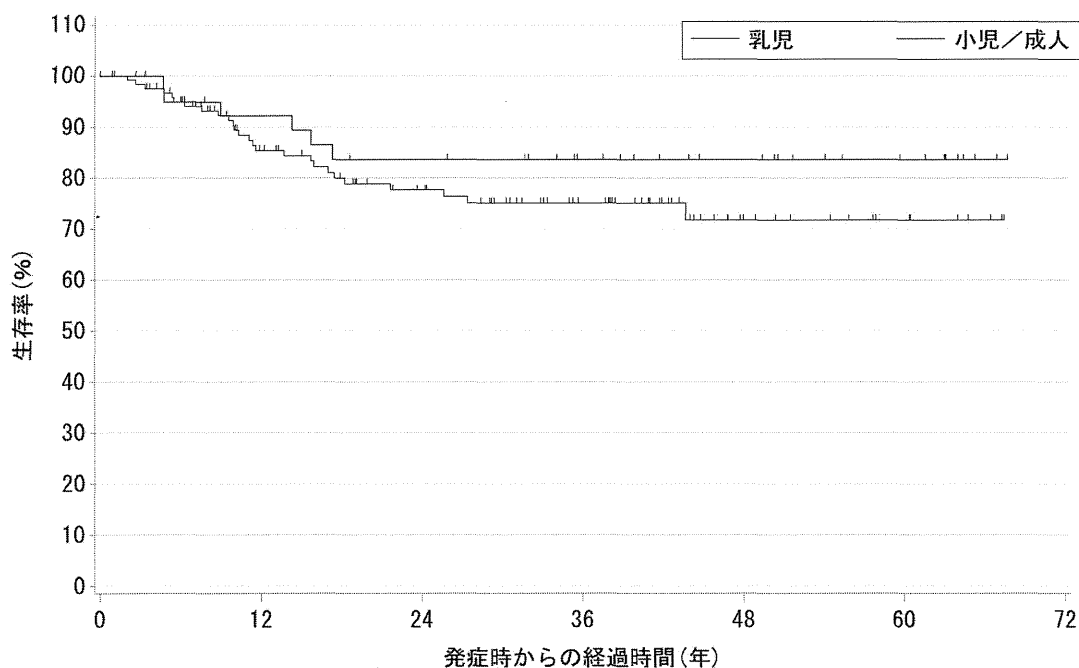
## 9.3 生存率・IFALD発症率・患者特性項目に関する乳児と小児/成人の比較

データ入力された乳児症例	231例		
		解析除外症例	109 例
		【解析除外理由】	
		2006年1月1日～2011年6月30日に発症しなかった症例	109 例
調査期間中*に発症した乳児症例	122例		
データ入力された小児及び成人症例	112例		
		解析除外症例	70 例
		【解析除外理由】	
		2006年1月1日～2011年6月30日に発症しなかった症例	70 例
調査期間中*に発症した小児及び成人症例	42例		

\*調査期間は「2006年1月1日～2011年6月30日」であった。

## 転帰

項目	カテゴリー	乳児症例 (n=122)	小児及び 成人症例 (n=42)	p値*
		症例数(%)	症例数(%)	
転帰	死亡	26 ( 21.3)	6 (14.3)	0.3217
	生存	96 ( 78.7)	36 (85.7)	



ログランク検定のp値 : 0.2620

## IFALD

項目	カテゴリー	乳児症例 (n=122)	小児及び 成人症例 (n=42)	p値*
		症例数(%)	症例数(%)	
IFALD <sup>†</sup>	無	102 ( 83.6)	38 ( 90.5)	0.2773
	有	20 ( 16.4)	4 ( 9.5)	

<sup>†</sup> IFALDは①黄疸かつBill値2以上②肝障害（食道胃静脈瘤あり）③肝生検（線維化かつ肝硬変）のいずれかを含む場合とした。

\* $\chi^2$ 検定のp値を算出した。

## 9.3 生存率・IFALD発症率・患者特性項目に関する乳児と小児/成人の比較

対象集団：調査期間中に発症した症例

項目	カテゴリー または統計量	発症時の年齢による分類		p値*
		乳児症例 (n=122)	小児及び成人症例 (n=42)	
性別	男性 女性	60 ( 49. 2) 62 ( 50. 8)	25 ( 59. 5) 17 ( 40. 5)	0. 2472
発症時年齢(歳)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	122 0. 04 0. 09 0. 00 0. 00 0. 45 0	42 30. 87 30. 56 1. 30 16. 11 97. 94 0	<. 0001
調査票記入時年齢(歳)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	122 2. 91 1. 52 0. 35 2. 97 5. 82 0	41 34. 90 30. 01 5. 39 21. 34 99. 92 1	<. 0001
発症から調査票記入時点 までの期間(月)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	122 34. 51 18. 05 4. 20 35. 65 68. 70 0	41 40. 71 19. 81 3. 90 40. 30 67. 80 1	0. 0661
身長(cm)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	104 77. 6 16. 0 45. 0 79. 8 113. 7 18	39 143. 3 23. 9 100. 0 148. 0 175. 0 3	<. 0001
体重(kg)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	107 9. 5 4. 3 1. 6 9. 4 25. 6 15	39 35. 8 14. 7 13. 0 36. 8 62. 0 3	<. 0001
BMI	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	103 15. 7 7. 9 9. 2 14. 9 89. 1 19	39 16. 6 2. 8 9. 8 16. 5 20. 7 3	0. 0007
腸管不全の分類	短腸症候群 運動機能障害 その他機能障害	64 ( 52. 5) 56 ( 45. 9) 2 ( 1. 6)	31 ( 73. 8) 8 ( 19. 0) 3 ( 7. 1)	0. 0035
残存小腸(cm)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	94 52. 1 49. 1 4. 0 42. 0 250. 0 28	32 58. 6 55. 5 0. 0 46. 0 250. 0 10	0. 6137
回盲弁	無 有	44 ( 40. 7) 64 ( 59. 3)	26 ( 63. 4) 15 ( 36. 6)	0. 0133
腸管切除	無 有	55 ( 45. 1) 67 ( 54. 9)	10 ( 23. 8) 32 ( 76. 2)	0. 0151
胃瘻造設	無 有	114 ( 93. 4) 8 ( 6. 6)	37 ( 88. 1) 5 ( 11. 9)	0. 2686
腸瘻造設	無 有	44 ( 36. 1) 78 ( 63. 9)	28 ( 66. 7) 14 ( 33. 3)	0. 0006

## 9.3 生存率・IFALD発症率・患者特性項目に関する乳児と小児/成人の比較

対象集団：調査期間中に発症した症例

項目	カテゴリー または統計量	発症時の年齢による分類		p値*
		乳児症例 (n=122)	小児及び成人症例 (n=42)	
腸管延長術	無 有	118 ( 96.7) 4 ( 3.3)	42 ( 100.0) 0 ( 0.0)	0.2348
減圧用胃瘻、腸瘻	無 有	78 ( 65.0) 42 ( 35.0)	33 ( 82.5) 7 ( 17.5)	0.0376
腸運動改善薬	無 有	86 ( 71.7) 34 ( 28.3)	31 ( 81.6) 7 ( 18.4)	0.2244
プロバイオティクス	無 有	32 ( 26.4) 89 ( 73.6)	21 ( 53.8) 18 ( 46.2)	0.0016
経口栄養	無 有	30 ( 24.6) 92 ( 75.4)	11 ( 26.2) 31 ( 73.8)	0.8363
経管栄養	無 有	88 ( 72.1) 34 ( 27.9)	31 ( 73.8) 11 ( 26.2)	0.8335
中心静脈栄養	無 有	35 ( 28.7) 87 ( 71.3)	12 ( 28.6) 30 ( 71.4)	0.9885
補液	無 有	61 ( 61.6) 38 ( 38.4)	27 ( 69.2) 12 ( 30.8)	0.4021
診療形態-入院・外来	入院中 外来通院中	25 ( 28.1) 64 ( 71.9)	6 ( 17.6) 28 ( 82.4)	0.2329
入院-過去1年以内の入院	無 有	22 ( 25.3) 65 ( 74.7)	10 ( 29.4) 24 ( 70.6)	0.6438
PS	0 1 2 3 4	28 ( 31.8) 19 ( 21.6) 19 ( 21.6) 6 ( 6.8) 16 ( 18.2)	6 ( 17.6) 17 ( 50.0) 3 ( 8.8) 6 ( 17.6) 2 ( 5.9)	0.0028
経口摂取	可能 制限あり 少量のみ 不可能	61 ( 68.5) 17 ( 19.1) 6 ( 6.7) 5 ( 5.6)	20 ( 58.8) 2 ( 5.9) 11 ( 32.4) 1 ( 2.9)	0.0017
ストマ	無 有	52 ( 57.8) 38 ( 42.2)	22 ( 64.7) 12 ( 35.3)	0.4829
小腸移植-現在の必要性	必要と思わない どちらでもない 必要と思う わからない	71 ( 78.0) 7 ( 7.7) 6 ( 6.6) 7 ( 7.7)	18 ( 54.5) 3 ( 9.1) 5 ( 15.2) 7 ( 21.2)	0.0495
小腸移植-将来の必要性	必要と思わない どちらでもない 必要と思う わからない	44 ( 48.4) 10 ( 11.0) 18 ( 19.8) 19 ( 20.9)	8 ( 24.2) 4 ( 12.1) 11 ( 33.3) 10 ( 30.3)	0.1020
カテーテル感染歴	無 有	39 ( 32.0) 83 ( 68.0)	9 ( 21.4) 33 ( 78.6)	0.1954
カテーテル血管閉塞	無 有	92 ( 80.0) 23 ( 20.0)	36 ( 85.7) 6 ( 14.3)	0.4141
残存カテーテル血管本数	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	115 5.7 0.6 2.0 6.0 6.0 7	42 5.8 0.6 3.0 6.0 6.0 0	0.2703
肝機能異常	無 有	44 ( 36.1) 78 ( 63.9)	24 ( 57.1) 18 ( 42.9)	0.0168
肝生検	無 有	104 ( 89.7) 12 ( 10.3)	38 ( 90.5) 4 ( 9.5)	0.8799
腎機能異常	無 有	113 ( 93.4) 8 ( 6.6)	33 ( 78.6) 9 ( 21.4)	0.0068
TB (mg/dL)	症例数 平均値 標準偏差 最小値 中央値 最大値 欠測数	109 2.03 4.43 0.10 0.37 22.94 13	41 1.93 4.42 0.17 0.60 21.90 1	0.0178

## 9.3 生存率・IFALD発症率・患者特性項目に関する乳児と小児/成人の比較

対象集団：調査期間中に発症した症例

項目	カテゴリー または統計量	発症時の年齢による分類		p値*
		乳児症例 (n=122)	小児及び成人症例 (n=42)	
DB (mg/dL)	症例数	74	24	0.8560
	平均値	2.27	2.00	
	標準偏差	4.60	4.54	
	最小値	0.00	0.00	
	中央値	0.10	0.20	
	最大値	18.80	16.90	
	欠測数	48	18	
AST (UI/L)	症例数	116	42	0.0018
	平均値	113.7	70.7	
	標準偏差	250.6	136.6	
	最小値	4.5	8.0	
	中央値	51.5	39.0	
	最大値	2368.0	746.0	
	欠測数	6	0	
ALT (UI/L)	症例数	116	42	0.5327
	平均値	71.4	61.2	
	標準偏差	82.2	60.3	
	最小値	6.0	6.0	
	中央値	48.0	42.0	
	最大値	515.0	211.0	
	欠測数	6	0	
TP (g/dL)	症例数	115	40	0.0001
	平均値	6.0	6.7	
	標準偏差	0.9	0.8	
	最小値	3.2	4.9	
	中央値	6.1	6.8	
	最大値	8.3	8.0	
	欠測数	7	2	
ALB (g/dL)	症例数	108	40	0.0574
	平均値	3.8	3.5	
	標準偏差	0.7	0.8	
	最小値	1.6	1.9	
	中央値	3.9	3.6	
	最大値	5.3	5.0	
	欠測数	14	2	
BUN (mg/dL)	症例数	115	42	0.0568
	平均値	12.9	17.8	
	標準偏差	10.2	17.9	
	最小値	2.0	4.0	
	中央値	10.3	12.5	
	最大値	86.0	101.1	
	欠測数	7	0	
Cr (mg/dL)	症例数	113	42	<.0001
	平均値	0.31	0.75	
	標準偏差	0.42	0.62	
	最小値	0.07	0.17	
	中央値	0.23	0.63	
	最大値	4.32	3.47	
	欠測数	9	0	
PT-INR	症例数	39	18	0.5031
	平均値	1.96	1.32	
	標準偏差	1.91	0.38	
	最小値	0.98	0.99	
	中央値	1.23	1.15	
	最大値	10.00	2.44	
	欠測数	83	24	



## 9.3 生存率・IFALD発症率・患者特性項目に関する乳児と小児/成人の比較

対象集団：調査期間中に発症した症例

項目	カテゴリー または統計量	発症時の年齢による分類		p値*
		乳児症例 (n=122)	小児及び成人症例 (n=42)	
血小板 (万/mm <sup>3</sup> )	症例数	115	41	0.3017
	平均値	27.1	25.3	
	標準偏差	13.0	12.0	
	最小値	1.0	2.9	
	中央値	26.3	24.1	
	最大値	73.3	54.6	
	欠測数	7	1	

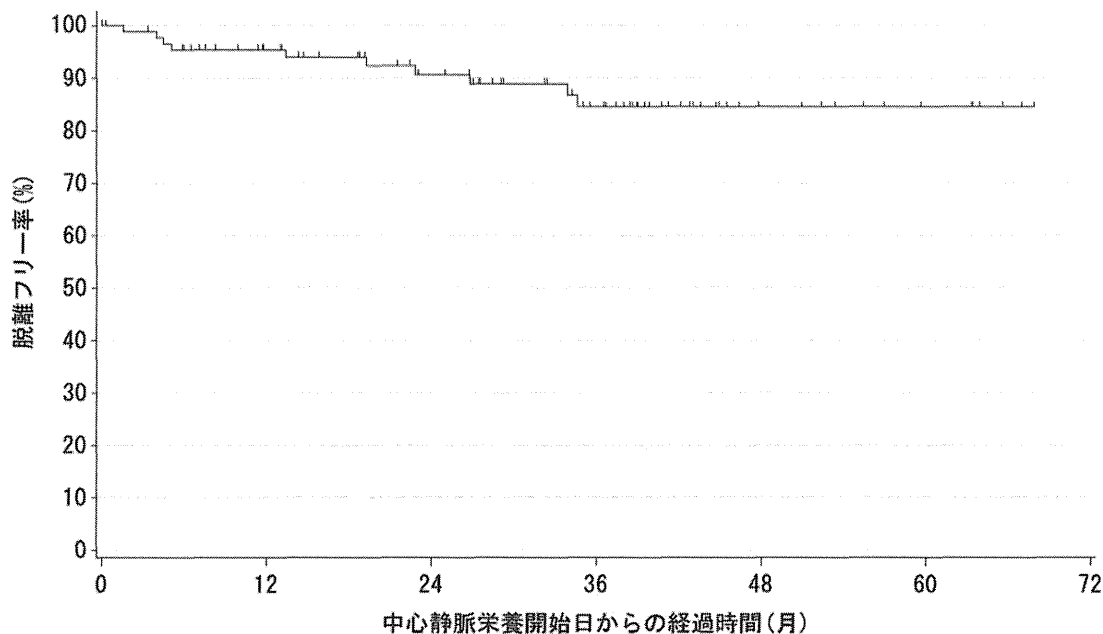
\*定性変数には $\chi^2$ 検定、定量変数にはWilcoxon順位和検定のp値を算出した。

## 9.4 乳児における離脱率に関する解析

データ入力された乳児発症症例	231例
----------------	------

解析除外症例数	144 例
【解析除外理由】	
中心静脈栄養を開始していない乳児発症症例	144 例

中心静脈栄養を開始した乳児発症症例	87例
-------------------	-----



中心静脈栄養開始日からの経過時間(月)	at risk	累積離脱症例数	離脱フリー率(%)	95%信頼区間
0	87	-	-	-
12	80	4	95.3	90.8- 99.8
24	54	7	90.5	83.7- 97.3
36	38	10	84.4	75.1- 93.6
48	38	10	84.4	75.1- 93.6
60	38	10	84.4	75.1- 93.6

註) 図表3.5 (解析対象集団: 乳児) では、「過去3ヵ月間」の栄養法を集計しているため離脱症例は5症例である。しかし本図表では中心静脈栄養開始日及び脱離の有無が記載されている症例を対象に解析したため、離脱症例は10症例となった。

## 9.4 乳児における離脱率に関する解析

中心静脈栄養開始時の項目	カテゴリー	症例数 (%)	単変量Cox回帰分析			
			ハザード比	95%信頼区間	p値 <sup>†</sup>	p値*
性別	女性	43 (49.4)				0.0753
	男性	44 (50.6)	3.54	0.75- 16.70	0.1096	
中心静脈栄養開始時年齢(歳)		87	0.00	0.00- 82.33	0.2675	0.0783
腸管不全の分類	運動機能障害	42 (48.3)				0.0289
	短腸症候群	45 (51.7)	4.64	0.98- 21.89	0.0527	

調査票記入時点の項目	カテゴリー	症例数 (%)	単変量Cox回帰分析			
			ハザード比	95%信頼区間	p値 <sup>†</sup>	p値*
残存小腸(cm)		71	1.00	0.98- 1.01	0.6210	0.5976
回盲弁	無	35 (44.9)				0.4301
	有	43 (55.1)	1.72	0.43- 6.90	0.4415	
身長(cm)		75	1.02	0.97- 1.07	0.4118	0.4027
体重(kg)		78	1.11	0.96- 1.28	0.1730	0.1857
BMI		74	1.00	0.89- 1.11	0.9365	0.9337
腸管切除	無	37 (42.5)				0.4000
	有	50 (57.5)	1.75	0.45- 6.79	0.4152	
胃瘻造設	無	79 (90.8)				0.1174
	有	8 (9.2)	0.00	0.00-	0.9931	
腸瘻造設	無	29 (33.3)				0.1532
	有	58 (66.7)	0.40	0.11- 1.38	0.1465	
腸管延長術	無	85 (97.7)				0.4073
	有	2 (2.3)	0.00	0.00->999.99	0.9941	
減圧用胃瘻、腸瘻	無	52 (60.5)				0.1155
	有	34 (39.5)	0.32	0.07- 1.52	0.1529	
腸運動改善薬	無	61 (70.1)				0.5168
	有	26 (29.9)	0.61	0.13- 2.89	0.5360	
プロバイオティクス	無	17 (19.5)				0.3775
	有	70 (80.5)	2.30	0.29- 18.17	0.4293	
カテーテル感染歴	無	23 (26.4)				0.0065
	有	64 (73.6)	0.17	0.05- 0.61	0.0064	
カテーテル血管閉塞	無	66 (79.5)				0.8910
	有	17 (20.5)	0.90	0.19- 4.23	0.8921	
残存カテーテル血管本数		87	2.26	0.38- 13.28	0.3676	0.2392
肝機能異常	無	24 (27.6)				0.1321
	有	63 (72.4)	0.38	0.11- 1.31	0.1249	
肝生検	無	74 (87.1)				0.6956
	有	11 (12.9)	1.38	0.29- 6.50	0.6857	
腎機能異常	無	80 (93)				0.2731
	有	6 (7)	0.00	0.00->999.99	0.9950	
TB (mg/dL)		81	1.03	0.84- 1.26	0.7702	0.7835
DB (mg/dL)		56	0.97	0.76- 1.23	0.7864	0.7719
AST (UI/L)		86	0.99	0.97- 1.01	0.2871	0.1278
ALT (UI/L)		86	1.00	0.98- 1.01	0.4714	0.3924
TP (g/dL)		85	1.85	0.83- 4.12	0.1295	0.1150
ALB (g/dL)		80	4.57	1.17- 17.88	0.0291	0.0121
BUN (mg/dL)		85	1.00	0.94- 1.06	0.9981	0.9981
Cr (mg/dL)		85	0.75	0.09- 6.00	0.7871	0.7500
PT-INR		29	0.00	0.00->999.99	0.5433	0.3238
血小板 (万/mm <sup>3</sup> )		85	1.00	0.96- 1.05	0.9842	0.9841

\*包括的な帰無仮説 $\beta$  (回帰係数)=0に関するスコア検定 (ログランク検定) のp値を算出した。

<sup>†</sup>Wald検定のp値を算出した。

註) 発症時の項目において統計的有意な項目は1つのみであったため、多変量解析は未実施とした。

## 10 短腸症候群症例における20歳以上と20歳未満の比較

対象集団：短腸症候群

項目	カテゴリー または統計量	発症時の年齢		p値*
		20歳以上 (n=51)	20歳未満 (n=137)	
短腸症候群の原疾患	クローン病	19	9	-
	上腸間膜動脈血栓症	9	1	
	中腸軸捻転	3	51	
	外傷	0	1	
	腹壁破裂	0	7	
	小腸閉鎖症	0	39	
	壊死性腸炎	0	10	
	その他	20	18	
性別	男性	34 ( 66. 7)	82 ( 59. 9)	0. 3929
	女性	17 ( 33. 3)	55 ( 40. 1)	
発症時年齢 (歳)	症例数	51	137	<. 0001
	平均値	41. 4	2. 5	
	標準偏差	20. 9	5. 4	
	最小値	20. 5	0. 0	
	中央値	35. 7	0. 0	
	最大値	97. 9	19. 4	
	欠測数	0	0	
調査票記入時 年齢(歳)	症例数	51	136	<. 0001
	平均値	56. 2	10. 0	
	標準偏差	16. 4	12. 0	
	最小値	28. 2	0. 4	
	中央値	52. 8	5. 8	
	最大値	99. 9	57. 0	
	欠測数	0	1	
発症から調査票記入時点 までの期間(月)	症例数	51	135	<. 0001
	平均値	178. 37	90. 8	
	標準偏差	144. 22	102. 29	
	最小値	9. 5	2. 6	
	中央値	119. 8	53. 4	
	最大値	496. 9	460. 4	
	欠測数	0	2	
身長(cm)	症例数	49	123	<. 0001
	平均値	162. 2	105. 6	
	標準偏差	10. 1	34. 8	
	最小値	128. 3	45. 0	
	中央値	162. 0	103. 8	
	最大値	177. 5	176. 3	
	欠測数	2	14	
体重(kg)	症例数	48	128	<. 0001
	平均値	49. 4	19. 8	
	標準偏差	8. 5	14. 6	
	最小値	31. 0	1. 6	
	中央値	50. 5	15. 4	
	最大値	67. 0	70. 8	
	欠測数	3	9	
BMI	症例数	48	123	<. 0001
	平均値	18. 7	16. 2	
	標準偏差	2. 2	7. 4	
	最小値	12. 1	9. 2	
	中央値	18. 7	15. 1	
	最大値	23. 5	89. 1	
	欠測数	3	14	
残存小腸(cm)	症例数	48	128	0. 0002
	平均値	84. 3	44. 9	
	標準偏差	62. 5	42. 3	
	最小値	0. 0	0. 0	
	中央値	75. 0	32. 0	
	最大値	210. 0	300. 0	
	欠測数	3	9	
回盲弁	無	40 ( 80. 0)	65 ( 50. 8)	0. 0004
	有	10 ( 20. 0)	63 ( 49. 2)	